

西淀川 記憶 あつめ隊

vol.27

2024年1月6日ヒアリング

西淀川区福町生まれ、福町育ち
樋上雅一さん(81歳)に子ども
の頃のこと、地域の変遷を
お聞きしました。



現在の福小学校の前で

ひがみ まさかず
樋上 雅一さん

3歳で終戦 ギブミーチョココレート

1942(昭和17)年生まれの雅一さんは3歳の時に終戦をむかえます。福町は空襲の被害は受けていませんが、近くにあった淀川製鋼が当時は軍需工場として、米軍には狙われており、淀川には焼夷

弾が落ちた、と後の話で聞いたそうです。進駐軍がパラシュートやトラックでチョココレートをばらまいていたのを「ギブミーチョココレート」と言って追いかけていた記憶が雅一さんにはあるそうです。

ジェーン台風では 九死に一生を得る

1950(昭和25)年、甚大な被害をもたらしたジェーン台風が来たときは小学2年生でした。自宅前にはドブ川があり危険だったため、近所の大きな家に避難したものの強風により家が揺れはじめ、福小学校へと避難します。当時の福小学校は木造モルタル平屋建て。「堤防が切れた！」という声を聞き、正門から外へ出ましたが、雅一さんの胸のところまで水が迫り、お母さんが手をひっぱるものの、体が流されそうになり、近くにいた男性の手助けで命が助かったそうです。自宅は軒まで水が浸かり、住めない状態になり、しばらくは仮設住宅で暮らしました。

玄関の鍵はかけず 子どもの声でいっぱい

町の印象を尋ねると、「閉鎖的な町だった。タクシード怖がって入ってこない」と。つまり、地域内での関係性が濃密だったのかもしれない。どの家も玄関の鍵はかけず、自由に近所の家へ上がって、「醤油、かりていくわな」といった具合だったそうです。閉鎖的ゆえの息苦しさがあったのかもしれませんが、一方で助け合って暮らしていたコミュニティの様子が垣間見えるようでした。

かつては、いたるところで子どもの声が聞こえ、町には駄菓子屋さんがいっぱいあったそうです。盆踊りも賑やかでした。1985(昭和60)年頃から、子どもが減りはじめ、町の姿が変わってきたと雅一さんは感じています。

これからしたいこと 淡水魚養殖、イチゴ栽培!?

これからどんな町になったらいいと思いますか?の問いに、雅一さんからは「み

んなで何かしたいなあ。淡水魚の養殖はどうか。コレっていう特色があったら福町に人が来ると思う」「園芸もええな。イチゴの栽培とか」と、具体的な構想が飛び出しました。福町で美味しい魚を食べたり、イチゴ狩りしたり、これは確かに面白いですね。錦



雅一さんにお借りした1924(大正13)年の福小学校の生徒たちの集合写真。
雅一さんのご両親が写っているそうです。